日輪（1953）

メディア 映画
ジャンル
製作国 日本
色彩 Color
時間 112分
初公開日 1953/11/18

【解説】
横光利一が邪馬台国を舞台に描いた同名小説を、比佐芳武が脚色し渡辺邦男が監督した。1925年に製作されたモノクロ映画のリメイク版で、東映初の総天然色映画。木暮実千代がヒミコ(卑弥呼)を演じた。
舞台は紀元前、まだ日本と呼ばれる前の東方の島国。日輪がかげり地上が暗闇に沈んだのは凶兆だとして、タケルは王女ヒミコとヒコの大兄との結婚を延期するよう申し出る。ナコクの王子であるナガラは狩りの途中で道に迷ったところをヒミコに助けられ、彼女に心惹かれてしまった。父のユクラは息子の身を案じ、カトリという娘と結婚させようとするが、ユクラはこれを拒否。馬を駆ってヒミコを強奪。ヒコの大兄は間者を使って穏便にヒミコを奪還しようとするが、逆に間者に殺されてしまう。

【クレジット】
監督 渡辺邦男
原作 横光利一
脚本 比佐芳武
撮影 渡辺孝
音楽 山田栄一
出演 片岡千恵蔵
木暮実千代
市川右太衛門
大友柳太朗
高千穂ひづる
宇治みさ子
月形龍之介
進藤英太郎

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.